『ちくせん』かわら版

2025 冬号

令和7年1月発行　美郷町政策推進室　電話：0982-62-6203　通算10号

ちくせんって？

自然と人の営みがつながった美しい風土や文化が残る美郷町。

「ちくせん」とは、そんな美郷町内の行政区（全24地区）において、生活に必要な仕組み、サービス、活動を、住民自らが企画・実施する取組であり、令和2年度から町の事業として推進しています。

各地区の実行委員会が、「無理をせず」「前向きに」「自分事化」をキーワードとして、『色とりどり』の取組を実施していますので、是非ご参加ください！

武蔵野美術大学生 in みさと 2024

“学び合い”の日々でした！

9月9日から10月7日まで、武蔵野美術大学3年生8名が美郷町を訪れ、若宮区を中心に、町内や県内で研修を行いました。炭焼きやイノシシの解体など、山の暮らしは初めてのことばかりだったそうです。それぞれが表現活動に落とし込み、若宮ミリョク展で発表。学生たちも地区の方々も、互いに学び合える機会となりました。

9/15 地元学 in 若宮

「まちに寄り添う川口たたみ店」「移住した阿部さん一家のこと」「若宮で生きる仕事 － 畜産・林業・栗 －」「若宮神楽の歴史と道具」、4班に分かれてお話をお聞きしました。神楽も見せていただき、大人数での宴会ですっかり打ち解けました。

9/16 敬老会

会場の装飾も担当。地区の先輩方も大喜びでした!!

9/28 若宮ミリョク展

写真や造形作品、絵画などで若宮の魅力を表現しました。

10/4 報告会

若宮地区の方が大勢集まって、満員御礼のにぎわいでした。美郷町の魅力や課題、自分たちの成長について、1ヶ月間で感じたことを発表しました。

学生たちから
「人の魅力がすごかった。たくさんの豊かさをいただきました」
「道端で会話したり人前で踊ったり、普段の自分ならできないことができてしまったことにも驚いています」

地区の方から
「幼い頃から美郷町で暮らしているので、こんな良さがあるのだと教えてもらえました」
「嬉しいとき落ち込んだとき、いつでも戻ってこられる場所であってほしいと思います」

11/9 若宮神社大祭

早速再訪して、祭りを一緒に楽しんだそうです。

美郷町のみなさん、若宮区のみなさん、ありがとうございました!!

地元学 in 水清谷

2024年12月14日、15日で水清谷区において、地元学が開催されました。昨年度に引き続き、日南市より5名の方が参加されました。

伝統文化、伝承文化、6次化、まちづくりの4つのテーマで地区の先生方にインタビューをし、魅力を掘り起こしていきました。成果発表会では、多くの方が聞きに来てくださいました。地域の方からは、「これまでやってきたことが文字になり、自分の思っていることを形にしてもらえた。それを改めて皆さんの前で発表していただき、感謝です。」「50数年住んできて、新たな発見もありました。捨てたもんじゃない。まだまだ行けるなと思いました。」と感想をいただきました。

先生方へのインタビュー

成果発表会ではたくさんの方が参加

冬春イベント

詳細は各区のInstagramをチェックしてください!!

●どんど焼き（中原区）
日　時：1月12日（日）
会　場：うなまの里　裏の田んぼ

●林業セミナー「大地先生におうちみろ会」（小原区）
日　時：1月19日（日）
会　場：北郷総合林業センター

●新年祭（入下区）
日　時：2月1日（土）
会　場：見性寺

●キムチづくりワークショップ（神門中区）
日　時：2月14日（金）、15日（土）

●レクリエーション（神門下区）
日　時：2月16日（日）
会　場：南郷総合運動広場

info

ちくせん交流会のお知らせ

日時：3月9日（日）
会場：美郷町内（場所未定）

今年度の各地区のちくせん活動を振り返るとともに、第2期ちくせん事業に向けた今後の展開などについてお伝えします。
美郷町の明るい未来を感じられるような会にしたいと考えていますので、

- 美郷町が好きな人
- 地域コミュニティに興味のある人
- ちくせんに興味がある人
- なんだか気になる人

に、ぜひお越しいただきたいです！

詳細が決まりましたら、チラシ配布やポスターなどでお知らせいたしますので、ぜひ、ご予定を空けておいてください!!

●ちくせんかわら版の配布予定場所（一部）
美郷町役場、北郷支所、南郷支所、南郷温泉 山霧
美郷レイクランド、美郷の蔵、いっつもや、北の郷、地蔵の里

ちくせんが全国誌に！

『TURNS（ターンズ）』vol.67
【12/20発売】
https://turns.jp/

全国誌『TURNS（ターンズ）』に、美郷町のちくせんが取り上げられます。「これからの地域とのつながりかた」をテーマとする雑誌で、第一特集の全8ページ掲載です。ちょうど取材のタイミングにあたる11月上旬にイベントの開催された黒木区をはじめ、買い物支援の取り組みが進んでいる入下区、若宮区などを中心に取り上げていただきました。全24地区に役場より一部ずつ配布予定です。

黒木区のコスモス交流会での集合写真

若宮造次郎公園での取材風景

ちくせんの輪

ちくせんで繋がる人にスポットをあて、各地区での活躍を紹介します

林田 未来さん

水清谷区
ちくせん実行委員
情報発信担当

水清谷出身。
3歳から日本舞踊を習い、夏祭りで披露していた。現在は臼太鼓もやっている。
ちくせんが始まり2年目に帰郷。今の自分にも何かできることがあるのでは！と活動中。

Q1 ちくせんでの取り組みは？

最初の年は、外の人達に来てもらおうとキャンプ場を核としたイベントや情報発信をしました。「外ばっかりじゃなくて、地区内のことも何かせんといかん！」というご意見をいただき、2年目からは地区の年配者に来てもらえるようカフェを開きました。地区内でどうやって情報を広めたら良いか試行錯誤していた時、ばあちゃんに「こんなことするよ～」と話したら、そこからグランドゴルフ仲間→各家庭→町外に出ている家族にまであっという間に広がっていきました。地区内では顔をみて声をかけていく方がすぐに広まることが分かりましたし、会ってお話しをすると「大変やね～」と声をかけていただけます。そんな時は、「楽しいからしよっとよ～！」と返すようにしています。

Q2 ちくせんに関わって嬉しかったことは？

キャンプ場のイベントは、初年度は210人、翌年は190人くらい来てくださいました。数字だけをみると減っていますが、町外からの参加は7割がリピーターでした。このイベントきっかけでキャンプ場に遊びに来てもらったり、新しい層のお客様も増えました。水清谷がわざわざ来てもらえる場所になったのかなと感じています。数字を分析して目に見える形で残せたこともよかったなと思っています。これからも、楽しみながら続けていきたいです。

Q3 新しい団体をつくったと聞きましたが？

ちくせんの取り組みを地区内外の50代までの若手でもやってみようと「水清谷 chuchi-CL（ちゅーちかる）」をつくり、いくつかイベントを企画実施しました。イベント当日は、地区のおばちゃん達が突然やってきて、阿吽の呼吸で手伝ってくれました。こうやって色んな事が成り立ってきたんだなと実感しました。私自身もやりながら学び、軌道修正しながら取り組んでいるところです。これまでの活動で気づいたのは、水清谷の方は個々の能力が高い人が多い分、周りに頼らず頑張りすぎるということ。色々なコトが繋がると、もっとみんなで楽しい時間が共有できるのに…と思っています。私たちの動きが、そうしたきっかけになるといいなと考えています。

chuchiCL BAR（8月の土曜日夜開催）飲みながら交流

カフェで地域の皆さんとおしゃべり

Q4 これから目指すことは？

何をするにしても楽しい活動を目指したいと思っています。みなさん仕事と家庭と地区でも色々な役を兼務して、伝統芸能もあって、更にちくせんが加わって、何とかやっているように感じます。そんな中で、楽しく過ごせること、受け継がなければ！という気持ちも大切ですが、楽しいから続けていたら伝統になったという考え方の方がいいなと私は思ってやっています。私が子どもの頃、臼太鼓や祭りなど、地元を担う大人たちは、みんなキラキラしていて、憧れでした。そんな大人になりたいと思っています。

長澤 愛菜さん

武蔵野美術大学3年

クリエイティブイノベーション学科在籍。産官学共同プロジェクトの一環で美郷町へ。滞在期間中にイノシシの美味しい部位を知ったそう。

Q1 美郷町のプロジェクトを選んだ理由は？

山梨の出身で、自分は果たして山のそばで暮らしていきたいのかを考えてみたかったんです。宮崎の山の暮らしを知って、ここに生きている人たちの考えを知れたらいいなと思っていました。一次産業、特に林業をもう少し知りたいという思いもありました。

Q2 印象に残った出来事は？

一番大きかったのは、川口元衛さんとの出会いです。若宮ミリョク展では元衛さんの写真集を制作しました。「やりたい」と言うと、何でも教えてくれて、イノシシの解剖ができたのもうれしかったです。毎日朝早くから訪ねて、飼料の粉砕機の刃の付け替え作業も藁のロール作りもさせてもらいました。

愛さんお気に入りの川口元衛さんの写真

ずっと興味があったというイノシシの解体も体験

Q3 約1ヶ月間過ごして、美郷町はどんな場所だと感じていますか？

若宮地区にどっぷり入らせてもらって、人のつながりが強い場所だと感じています。人と向き合うことを大切にしていて、考えを伝えてくれる、自分たちが話したことをしっかり覚えてくれていることにも驚きました。いろんな人が気にかけて助けてくれて、東京なら財布を忘れて出かけたら取りに戻ると思うんですけど、そのまま出かけても安心できるほど。みんな、しょっちゅう財布を忘れていました。

Q4 短い期間で関係を築くためによかったことは？

地元学と敬老会の飲み会で、関わり方が変わりました。最初は美郷町見学ツアー、お客さんと感じていましたが、飲み会をきっかけに、お客さんじゃなくなって、地元の方に受け入れてもらえたと思いました。

Q5 これからやってみたいことは？

メンバーみんなで、何かアウトプットしていきたいと話しています。最初に考えていた、自分が山のそばで生きるかどうかについては、決められないほどたくさんのことを得ました。これからは、ここで受けた影響があるだろうと思います。コミュニケーションのあり方、くらし、仕事のあり方、営みって何だろうなど、疑問がつきません。何か一つ卒論で向き合えたらいいなと思います。
美郷町は、寂しいとき苦しいときも帰れる場所になったと心から思っています。またいつか帰ってきたいです。

川西いさみ さん

北郷入下区
美郷町立美郷北義務教育学校 中学3年生

入下区在住の14歳。現在中3で受験を控え、生徒会長としてもSDGsの活動などに積極的に取り組んできた。将来は美容関連の仕事につきたい。

Q1 今はどんな生活をおくっていますか。

美郷北義務教育学校に通っています。中学3年生です。同級生は全部で9人。そのうち7人が女子です。みんな保育所の頃からの幼なじみで仲が良いんです。友人たちは秋盛や宇納間、黒木など、少し離れた場所に住んでいますが、自転車などで遊びにきてくれて、うちがみんなの集まる場所になっています。今は延岡市にある高校への進学を目指しています。進学で自宅から離れることには不安もありますが、寮に入る予定で、親友も同じ高校を目指しているので心強いです。

Q2 学校の生徒会ではどんな活動を？

いま私は生徒会長を務めています（2024年10月当時）。生徒会のメンバーは8人でSDGsに関する活動に力を入れています。例えば、プラスチックごみ削減のために牛乳のストローをなくしたり、学園祭でSDGsバッジをつけて活動したり。また、夏祭りではうちわをつくって配布しました。自分たちで企画をして実行する楽しさを感じています。取り組みの意図がちゃんと皆さんに伝わっているのか不安に思うこともありますが、頑張っています。

Q3 地元学に参加してみていかがでしたか？

私の知らない頃の入下区のことを知ることができて楽しかったです。昔は映画の上映もあって、賑やかだったんだなって。今の延岡くらい栄えていたんじゃないかと思うくらい。いま入下区での生活は楽しいですが、将来は美容関係の仕事、メイクの仕事につくのが夢です。なので将来の夢を叶えるために、一度は外に出て頑張る必要があるかもしれないと考えています。

Q4 ちくせんについて、知っていることはありますか？

ちくせんは父が関わっているので夜に会議に行ったりもするのですが、大変そうというより楽しそうに見えます。私はひまわりのイベントや新年祭、しめ縄づくりなどに参加しました。大人たちがみんな楽しそうに活動しているのがいいなと思います。将来入下区に住むことになったら、関わってみたいです。地域にワクワクするようなイベントや、人が集まる場所ができたらいいなと思うから。いつか友達と寄れる駄菓子屋さんをつくってみたいです。

地元学の案内役だった井本義春さんと共に

入下区での地元学での発表の様子